

新潟県聴覚障害者地震対策本部ニュース NO. 1

平成 16 年 11 月 4 日発行

新潟県聴覚障害者地震対策本部設置

- 10月23日** 午後5時56分 中越地震発生
10月24日 県理事会急遽中止。安否確認情報収集。CS 障害者放送統一機構 2 名来県。当日長岡入り。夕方、全日本ろうあ連盟大杉豊事務所長空路新潟入り。午後6時より全日ろう連、県聴障協、県サ連、新通研、県情報センターの4団体会議。「新潟県聴覚障害者地震対策本部」設置。
10月25日 県に交渉。地元災害対策本部から手話通訳派遣依頼あった場合は県から派遣できると認める。
10月26日 小千谷市ろうあ協会会長より安否のメールあり。長岡聾学校避難所に『アイドラゴン』臨時設置。
10月27日 地震対策本部会議。小千谷市ろう協より「10.23 災害小千谷ろう・手サ対策本部」設置の報告入る。
10月28日 小千谷市役所より「聴覚障害者33名無事」の連絡あり。新潟市障害福祉課より新潟市手話通訳派遣 OK。社団法人大阪聴力障害者協会会長清田廣氏、事務局中村ひろ子氏来県。阪神大震災時の組織体制など貴重なアドバイスを頂く。北信越ろうあ連盟副連盟長小中栄一氏来県。
10月29日 「新潟ふれ愛プラザ」県聴障事務所を拠点に対策本部本格稼働。現地視察団につい

て協議。手話通訳派遣予定者 60 余名確保。道路状況確認。ライフライン情報収集、救援物資確保など。小千谷市ろうあ協会会長宅に『アイドラゴン』臨時設置工事。

10月30日 小千谷地区、長岡地区視察隊現地入り。被災者の方の安否確認。ニーズ調査。

10月31日 十日町地区視察隊現地入り。北信越ろうあ連盟北野雅子連盟長、兵庫県聴障協小松博来県。

11月1日 全日本ろうあ連盟 石原事務局次長が来県。県に現地視察報告(10/30、31)。北信越ろうあ連盟 北野連盟長、勝本本部長

11月2日 事務局会議(連盟)石野事務局長、石原事務所次長(対策本部)勝本対策本部長他議題/安否情報の確認、対策本部の進捗状況、マスコミ対応、現地視察、ボランティア対応

11月3日 被災地区調査行動隊が地元ろうあ協会等の協力を得て現地入り。長岡地区/A班、B班の2班。小千谷地区/勝本対策本部長、石野全日本ろうあ連盟事務局長他が調査。現地では、「被災者の方・ご家族の皆様へ」のお見舞いと、現地入りし調査する目的、被災環境の変化による要望等を対策本部へ連絡して欲しいと書かれた文書を配布しながら被災されたろうあ者の皆さんに直接お話を聞く。

新潟市ろうあ協会岩野美智子氏を対策本部専従職員として採用。

11月4日 対策本部事務局体制について協議。

11月8日 県に長岡地区、十日町地区に手話通訳設置を要望予定。

対策本部組織

本部長 勝本卓 行政・対外対応 勝本卓

実務責任 渡辺正 岩野美智子(連絡係) 金子美香(安否情報データ管理) 清野孝子(マスコミ、福祉機器会社対応) 磯野由美子(現地視察準備、手配) 古川明子

通訳者の確保 県障害福祉課 杵鞭加奈子 支援対策隊 金子敏、(協力)小林秀治 ニュース・情報収集 本多哲哉、加藤厚子、石川渉

義援金・経理 加藤厚子、金子美香

現地視察隊報告

十日町地区支援行動隊報告
十日町市の手話通訳派遣制度は登録者が10人いるが、各々被災の為に活動出来ず。手話通訳による情報支援が早急に必要ならろうあ世帯把握。

市災害本部にて「十日町社会福祉協議会福祉課福祉係長」に被災者の方の状況、情報保障について確認。県からの要請は全く聞いていないとの由。急遽、ろうあ者の災害時における状況を説明し、きちっと情報を伝えるよう要請。これから被災者の方宅を廻ると伝えたら、ついでに「市からのお知らせ」を配って欲しいとコピー機へ。(市は災害発生後、8日間もろうあ者に対し情報提供出来ず)ゴミ収集日、ゴミ分別、家宅調査案内等、避難所閉鎖など多数。「家宅調査」は自分から申し出ないと調べて貰えない。これを元にして「被災証明」が発行される。「被災証明」によって保険を掛けていけば、保険金が支払われるし、色々な面の証明になる。

「十日町市役所健康福祉課長」「障害援護係長」にアイドラゴン設置要請。十日町市身体障害者福祉センターに設置可の返事を頂く。

十日町市役所玄関口にて、一番心配されたろうあ夫妻に出会う。地震発生後、数日はコミュニケーションが取れず何も食べないまま過ごす。壁・窓ガラス・ふすま破損。当初は近くの公園の臨時避難所。長岡市より聴者の長女、東京から次男が駆け付け、当分の間は「津南グリーンピア（厚生年金施設）」にて避難生活。家は入れない状態。本人は元気な様子で大いに安心する。

ろうあ者宅1軒目。家に被害はなし。向かいが手話サークル会員で非常に助かる。但し、家宅被害調査は市の方がやってくれるものと勘違いしており、申し込みが必要と教える。余震の度に何度も家外に飛び出し、寝不足気味。元気。

ろうあ者宅2軒目。壁にひび。温水器パイプ・茶碗・皿など破損近所付合いはあまりなく、4日間車中泊。東京より聴者の息子が駆け付け支援。息子が来るまで、車の暖房のつけ方が分からず、ホッカイロで暖を取る。避難所から一日三食、食事を貰って過ごす。翌日からは避難所閉鎖。水道、電気回復。入浴可能。ガスはプロパン。元気な様子ですが、奥方の介助で今後が心配される。

中里村へ。ろうあ者宅3軒目。茶碗・皿など破損。家には被害なし。1階の車庫で寝泊り、食事作り。2階、3階は余震が恐ろしくて、とても居られない。「アイドラゴン」所有。発生後、中里村役場の保健士が安否確認に駆け付ける。

中里村ろうあ者宅4軒目。3日間車中で過ごす。大きく揺れるも被害はなし。玄関内の飾り皿が落ちた程度。余震が恐ろしくて、今も3階で寝られない。地震発生後、お向かいさんが一度様子を見に来てくれるが、その後は誰も来ない。「アイドラゴン」所有。これから現地視察隊が来るであろうと待っていたと感激。

小千谷地区支援行動隊報告
小千谷市の避難所「小千谷体育館」訪問。
避難所「小千谷市体育館」1軒目。ろうあ者（女性：80歳）。16年前から聞こえなくなる。手話はOK。家族7人と一緒に非難。体育館の1階が満員で、2階のランニングコースで毛布を敷いて横になっている。食事は配給を手話サークルの人が持って来てくれる。「食べ物はある」と言っているが、3食はパンかおにぎり。周りにコミュニケーションの取れる人がいないので、手話ができる人と話したい様子。

避難所「小千谷市体育館」2軒目。ろうあ者（女性：67歳）。難聴者。手話は使えない。2階のランニングコースに毛布を敷いて横になっている。筆談でのコミュニケーションのため、情報不足が心配。

避難所「小千谷荘」3軒目。ろうあ者（女性：59歳）。ひとり暮らし。今は近所にある小千谷荘（どこかの会社の寮）に避難している。「豊栄市にいる弟に連絡して、今すぐに行きたい」と言っている。

その後、10月31日（日）豊栄市の弟の連絡先がわかったため電話連絡をとった。弟もFAXで1回連絡がとれたきりだったので心配していた。「姉が帰りたいのであればこちらは構わない。小

千谷市までの道路が確保できれば迎えに行く。今日また連絡してみる」と言っていた。11月1日（月）無事、弟のいる豊栄市に帰ったことを電話で連絡した。

ろうあ者夫妻宅。自宅で生活。水道、ガスは使用不可。玄関前の所で休んでいる。

ろうあ者夫妻宅。小千谷市聴覚障害者協会役員。自宅で被災。妻が階段から転倒しケガ。昼は自宅。夜は近所の保育所で休んでいる。自宅は壁が落ちている。

小千谷市役所に手話通訳配置

設置場所/小千谷市役所 11月3日から
業務時間/10時～16時

情報提供/ 1.健康（医療・ケア）2.住居（修理・仮設住居申込み）3.教育（学校・PTA）4.安否情報（家族・親戚・会社）5.避難所 6.暮らし（ペット・FAX破損）7.金融（申請・保険・諸制度利用、集金）など市役所の窓口で想定されるもの。

地震対策本部では、生命にかかわる場面通訳や緊急時の対応、手話通訳の健康面を考え、2名の配置を県に要請。

新潟県聴覚障害者地震対策本部

電話025-381-1956

FAX025-381-4699

E-mail niigata-roukyou@helen.ocn.ne.jp